

### 多自然川づくり取り組み事例

タイトル：吉野瀬川放水路新設に伴う環境保全を考慮した合流部の取組みについて		
水系/河川名：一級河川 吉野瀬川	河川分類：中小河川	
河川の流域面積：59km <sup>2</sup>	整備計画流量：320m <sup>3</sup> /s(W=1/30)	セグメント：2-1
事業：河川改修	事業開始年度 昭和57年度	
目標設定：なし	段階：C(モニタリング・評価時)	
課題・目的(主な)：礫河原、砂州・中州の保全・再生・創出、瀬・淵の保全・再生・創出		
工法(主な)：掘削(河床)		
配慮事項(主な)：委員会、協議会等の開催		

#### 背景・課題、目標設定

##### <背景>

吉野瀬川は、流下能力が低く度々洪水被害が発生していたため、洪水対策として放水路整備事業を行った。そこで、放水先の日野川に放水路の合流点ができることになるため、日野川の環境が大きく変わることが予測された。よって、河川環境への影響を低減させるため、学識経験者および漁業協同組合、県市町職員等で構成する「吉野瀬川環境保全委員会」を設置し、課題への検討を行うこととした。委員会の中で課題に対する評価を行うため、事前調査等、放水路完成による影響調査を行った。

##### <課題>

- ・日野川の砂礫河床が、放水路から排出される砂泥により目詰まりする可能性
- ・放水路による排水が、日野川の水質を悪化させる可能性
- ・放水路の排水による河川形態の悪化、擦り付けみお筋の生態系への影響



#### 取り組み内容・対策例

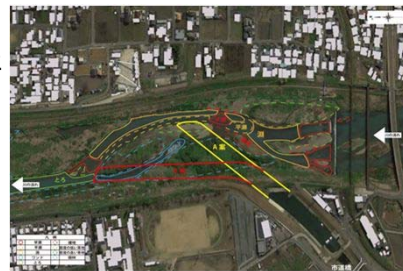
##### <取り組み内容>

##### 事前調査を実施

- ①魚類調査
- ②水質調査
- ③河川形態調査
- ④産卵床調査
- ⑤河床材料調査

事前調査の結果をもとに、委員会にて課題の評価を実施。放水路整備事業による課題への影響がないと評価。

調査結果より、更に影響の少ない取り付け方法を委員会にて検討。



B案で施工することに決定

#### モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

##### <放水路完成後の環境変化>



完成状況

- 魚類調査を実施  
事前調査で21種確認された結果に対し事後調査では18種確認。  
**河川環境に大きな変化はないと判断**  
**今後も継続調査が必要**
- 河川形態調査を実施  
放水路合流部では河川形態の多様性が創出

##### <今後の予定>

モニタリング調査を継続実施。事前調査で確認された魚類や産卵床が確認できるか調査を行い、河川環境を継続して守っていく。

#### 備考